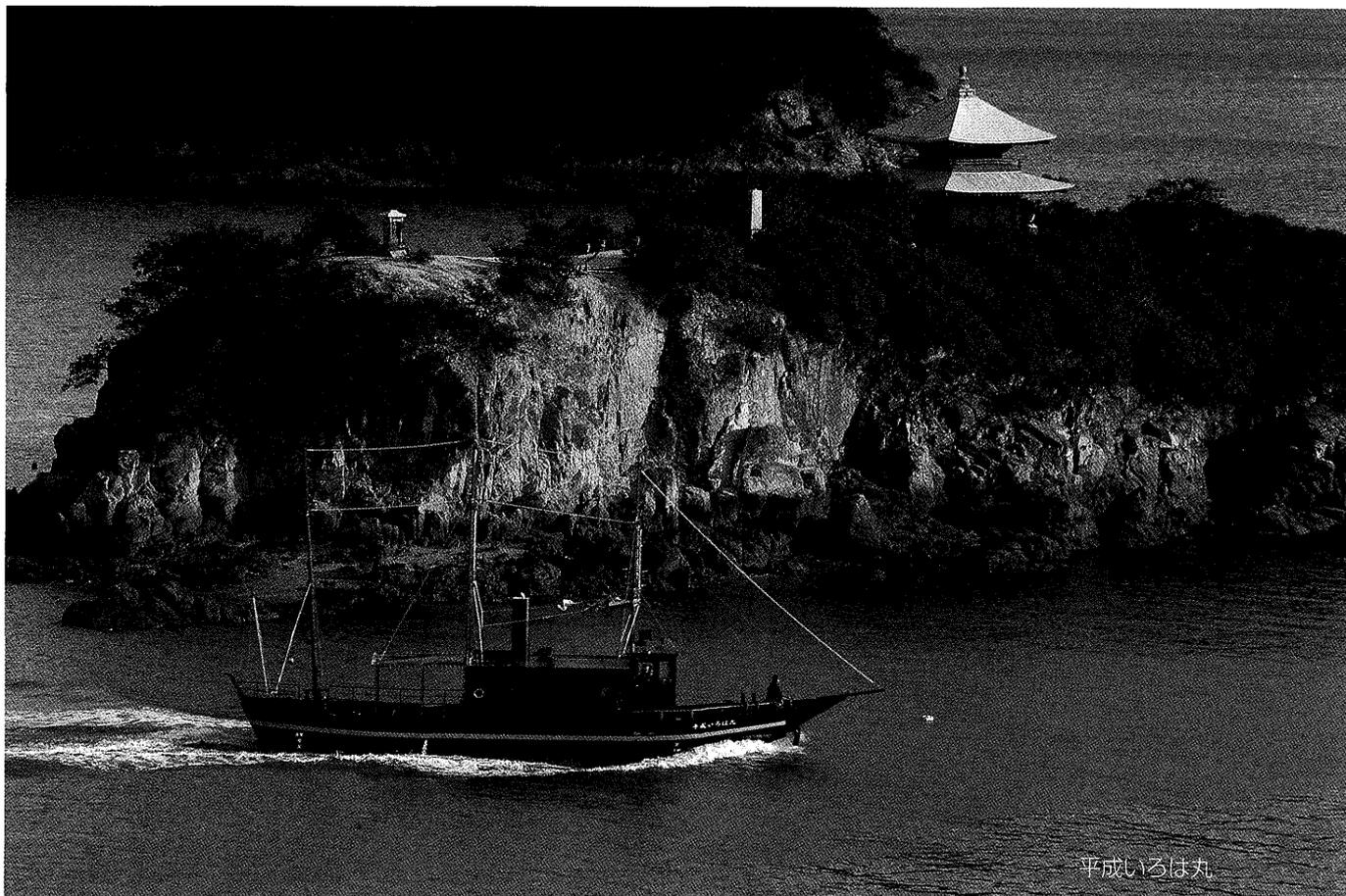


福山市営渡船「平成いろは丸」が就航

— 坂本龍馬ゆかりの地 鞆の浦 —



平成いろは丸

1. はじめに

鞆の浦は、福山市鞆町の沼隈半島南端に位置しており、その昔「吾妹子が見し鞆の浦のむろの木は常世にあれど見し人ぞなき」（大伴旅人）と詠まれたのをはじめ、万葉集には鞆の浦を詠んだ歌が8首残されているとのことであり、古くから景勝の地として知られております。

沿岸部には仙酔島、つつじ島、皇后島、弁天島、玉津島、津軽島などが点在しており、特に福禅寺の対潮楼から仙酔島、弁天島を眺めた景色は、多くの観光客を魅了してきました。また、鞆の浦の港町である鞆は古い町並みが残り、「常夜燈」、「雁木」、「焚場」、「船番所」などの江戸

時代の港湾施設が残されているのは全国でも鞆港のみであります。

一方、土佐海援隊長、坂本龍馬らに乗せた「以呂波（いろは）丸」が、鞆の浦沖の六島付近で紀州藩の軍艦「明光丸」と衝突し、鞆港へ曳航される途中沈没した、いわゆる「いろは丸沈没事件」でも知られており、近くの「いろは丸展示館」には関連資料が展示されて、坂本龍馬の隠れ部屋も再現されています。

本年1月9日、福山市が建造した市営渡船「平成いろは丸」が、鞆の浦と仙酔島を結ぶ航路に就航しました。

当センターは、福山市からの委託により本船の建造監理を実施しましたので、以下に概要を紹介します。

いろは丸の主要目

全長	：	30間
幅	：	3間
深さ	：	2間
トン数	：	160トン
機関	：	45馬力
外輪船	：	蒸気機関
マスト	：	3本

2. 建造基本計画

本船の基本計画は、福山市殿、造船所及び当センターの三者が出席した建造会議において、造船所より提出されたプロ

ポーザル資料について協議が行われ、以下に示すコンセプトで建造することとしました。

- 船体の塗装色は、当時の状態を忠実に再現するため黒色とする。
- 外輪の有無については、安全性・効率性などを考慮して装備しない。
- 客室内の内装は木目を基調とし、遊び心や当時の雰囲気が感じられるものとする。
- 艀の景色を出来るだけ広く見える配置とする。
- 交通バリアフリー法を重要視した配置とする。



3. 船舶の概要

(1) 工程

着水 平成21年11月30日
就航 平成22年 1月 9日

(2) 主要目等

船質	鋼製
全長	22.28m
垂線間長	14.70m
幅(型)	4.30m
深さ(型)	1.50m
満載喫水	0.90m
総トン数	19トン
航行区域	平水区域
航海速力	9.5ノット
最大搭載人員	101名
船員	2名
旅客	99名

(3) 船体部主要機器等

操舵装置	0.5t - m	1台
油圧ウインチ(船首スプリット用)		1台
ボラード		4個
鋼製マスト		3本
船首スプリット		1式
防舷装置		1式
バリアフリー設備		1式
救命設備		1式
消防設備		1式
船灯・信号器		1式
係船装置		1式

(4) 機関部主要機器

主機関	4サイクルディーゼル機関	1基
	出力180kW (245PS)	
	スキュー付固定ピッチプロペラ	1個
	油水分離機	1台
	ビルジポンプ	1台
	油圧ポンプ(主機駆動)	1台
	電動通風装置	1台

(5) 電気部主要機器

1) 電源装置・配電装置		
直流発電	2.5kW	1台
蓄電池 主機始動用		1群
2) 航海灯・照明装置		
航海灯・信号灯		1式
探照灯(シールドビーム)		1台
投光器		1台
3) 航海計器・通信装置等		
運航情報モニター		1台
磁気コンパス		1台
第3種汽笛(電子ホーン)		1台
ワイパー		1台

4. 特徴

(1) 外観及び内装

本船は、幕末時代に航海していた「いろは丸」をできるだけ忠実に再現するため、黒を基調とした塗装色を採用するとともに、マスト3本を設置しています。

また、当時の航海を模擬体験できるよ

う、客室内には時代物のエンジンテレグラフ、マグネットコンパス、舵輪などの装飾品を配備しています。

床及び椅子席は木目調で統一され、客室の壁には、福山市殿より提供された坂本龍馬像の写真が掛けられており、当時を偲んだ船旅が体験できるよう配慮されています。

(2) 乗降設備

本土側での乗降は、雁木状の岸壁に船首づけで行われるため、潮の干満にも対応が可能な跳ね上げ式船首スプリットを採用しています。この装置はバリアフリー法にも適合する構造としており、車椅子の旅客も安全に乗降できる弱者に優しい船となっております。

5. おわりに

景勝地であり歴史との接点も多い艀の浦では、1月9日の就航以来、斬新なデザインと龍馬伝のテレビドラマ化や時代劇ブームを反映して、乗船率の高い運航が続いていると聞いております。本船の建造監理を進めるにあたり、常に積極的なご支援とご高配を賜りました福山市殿に対し厚くお礼申し上げます。また、本瓦造船株式会社殿が、高度な技術と誠意をもってご尽力頂いたことを付記します。

(海洋技術部 太田 悟)